日刊（除月曜）　昭和25年10月6日第三種郵便物認可　昭和26年7月18日運輸省特別扱承認第684號
磐城日日
昭和28年（1953年）5月14日（木曜日）　第832號

磐城日日
発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
編集兼発行人　長瀬芳郎

印刷
事務用印刷物
チラシ・機関紙
長瀬印刷株式會社
TEL219・387

常磐に權威者が參集
全國選炭大会開く
十六日から　五日間に亘り

第三回全國選炭大会は來る十六日から二十日まで五日間、常磐地區に華々しく開催されることになつた、主催は通産省石炭局、東京、仙台兩通産局、工業技術院試験所、全國炭礦技術会、東部炭礦技術會の各官廳團体で、後援に東北大学選鑛製錬研究所、日本石炭協会、東部石炭協会等で本大會は講演會、最新選炭機器展示會、見学会など学術的な催しが中心となり、一般の期待がかけられている

今次全國選炭大会は九州北海道に次いで三回目で特に最近炭況不振から選炭への關心も一しお深く常磐地区が選ばれたもので、本大会には約二百名の全國各炭礦の選炭技術専門家が集まる、このため地元でも受入れ態勢の整備に万全の策を考慮し十六日夜の歓迎懇親会には石城名物「ジャンガラ念佛踊り」や「會津白虎隊」「炭礦踊り」などの余興を自治会館で開く予定をたてている

大会は先ず十六日午前九時から湯本町自治會館に開催、大會長大越新氏（常磐炭礦社長）の挨拶に始まり、經過報告、次いで北海道、常磐、九州、宇部各地区選炭技術狀況報告がある、午後一時半から講演会、仝五時から歓迎懇親會、二日目十七日は午前九時から同会館に於て、引續き講演会が開かれ、つづいて最新選炭技術並びにメーカー新製品の紹介が行われ、午後に検討会、三日目十八日には引續き午前中は講演会及びメーカーの新製品紹介があつて、午後は東北大學教授和田正美氏を司会に検討会を開き三日間のスケジユールを終る

次いで十九、二十日は常磐炭礦湯本礦選炭場をはじめ内郷礦中央選炭場、古河好間炭礦選炭場、大日本炭礦磯原選炭工場、常磐南中郷礦煉炭工場、東北大學選鑛製練研究所などのモデル選炭工場を具さに見学会を行うことになつている

なお記念講演會の日程は

選鑛研究発表と
自治會館で記念講演

次の通りである

場所…於自治会館

十六日午後二時①「高松炭礦二島選炭工場設備について」日炭高松礦二坑土屋選炭課長、②「選炭効率標準計算法について」三井本社黒田祝氏③東北大學選鑛研究所の研究発表

十七日午前九時①「大日本勿来、磯原兩礦に於ける重液選炭について」大日本勿来礦、松本選炭係長②メーカー新製品紹介③検討会……司会高桑、前田兩氏

十八日午前九時①「江迎礦に於ける浮選と脱水について」日窯礦業江迎礦業所月成選炭係長②メーカー新製品紹介③検討會……司会和田、前田兩氏

底曳の夏場轉換
サバ漁に明るい見透し

底曳漁業は資源枯渇のため逐次衰退の途を辿り、サンマ漁業にかろうじて急場を打解している現狀であり、その打解策が色々問題化して、水産廳では先き頃から北洋漁業の再開と共に、底曳船を優先的に轉換操業させる、また北千島以南の鮭鱒流し網なども一應衰退、打解策として研究中であるが、北洋及び北千島以南の鮭鱒流し網漁業などは許可隻數の微々たるもので、これらは底曳網漁業の衰退の打解策としては余り期待されてはおらない、これに對する打解策の研究は關係者間に於いて色々討議されるも、見透しもつかず、悩みの種であつた

四ッ倉機船底曳網、秋刀魚棒受網漁業協同組合では逸早く底曳網漁業の前途の資源枯渇に着目するところとなり、仝組合理事佐藤仲氏を中心に、他漁業轉換策にのり出し、底曳船として性能及び構造などから見て九州西海区の「さば」の一本釣りが最も有望なることを聞くに及び、組合員を先頃千葉縣に派遣して調査させた結果、漁期……漁船の噸數から乗組員、漁法などの面から、底曳船の轉換に最も有望なることを、再確認することになり、この旨を縣知事に上申すると共に縣下各漁協に呼びかけている

「さば」の一本釣に轉換することは、底曳整理船の場合は優先的に許可する方針でもあり、知事も漁区調整委員会に諮問してみるといつており、愈々有望となつて來た

今組合が調査した「さば」の一本釣りと云うのは五島列島～済洲島間で六月から十月迄で、根據地は長崎、福岡、戸畑、下関で一カ月に六航海から八航海で一万五千貫から三万貫程度の水揚があるものと見られる

貫當百円として月三百万円の水揚が可能である

経費は六十六万圓であり本縣衰退漁業の漁場開拓としての期待大なるものがある

[illegible]の店
鐵岡呉服店
小名浜[illegible]

美術教育の振興目指す
平下寫生大會

美術教育振興のため、平市小中学校教育研究協議會では來る十六、七の二日間、平市立第一中學校講堂に於て、実習及び小中学生徒大会を開催する講師に伊藤悌三先生を迎え、十六日午後一時から教員の實習、人物など寫生、會費三十圓（紙、えのぐの用意あり）十七日午前九時から学童郊外寫生大会、優秀作品には賞品、賞狀あり、生徒会費不要

郡下中學役員會
正副會長に　日野鈴木氏

石城郡下中學校役員會はこのほど平一小に開き、本年度役員の改選を行つた結果、次の通り決定をみた

会長…日野良太郎（内郷一中）副会長…鈴木孝雄（小名浜一中）仝小松正躬（勿來中）總務部長…三森芳雷（内郷二中）第一支会長…菊地一巳（植田中）第二支会長…永野武（湯本一中）第三支会長…穗積豊秋（赤井二中）第四支会長…松本茂壽（四倉中）第五支会長…小野若松（澤渡中）研究部長…佐藤瑞枝（小名浜二中）財政部長…岡部政一（磐崎中）職業家庭部長…松本茂壽（四倉中）体育部長…佐川武夫　錦中）

学制八十周年の
記念日を迎えて

明治五年の学制発布で小學校が誕生してから今年でちようど滿八十年になりそのきのう十三日は学制八十周年記念日でありました

各地ではそれぞれ記念行事を繰り展げます、また郵政省では十三日から二十日まで記念スタンプを使用しますが、これは全國都道府縣廳所在地の主な郵便局に備えつけられ差出人の希望により窓口に差出された手紙と、ハガキの消印に使用されることになつています

スタンプ圖案は、ほたる雪、本、ペンに通學する兄妹を配したもの

では次に小名浜第一小學校の学制沿革變遷を述べてみよう……

当校の明治初年の記録は詳らかでないようですが幕末の余風は所々にみられ、寺小屋式な私塾がありました、明治四、五年頃は西町、仲町の有志が相謀りて、衣笠眞（舊泉藩）氏を聘して西町四八番地鈴木金十郎氏宅を借り「致新舍」と稱し専ら和漢の学を講じたといわれます、これと同時に中嶋、米野の有志が相謀りて佐坂道全（舊棚倉藩）氏を聘し、中嶋の安養院を借りうけて仝じく和漢の学を講じ來りました

明治五年八月（一八七二年）文部省の學制の發布があり、仝六年六月二十日當時の米野村、中嶋村を一区として前記安養院を校舍に充て西町村、中町村などを合併して一学区となし、さきの致新舍を中町村の地福院に移し致新舍と稱しました、仝七年二月官命によつて右二氏が教師に當りましたこれが現在の小名浜第一小學校の萠芽となつたのであります、仝八年に至り時の權令により西町、中町、中島、米野の四ヶ村を二校に分立、本町二十一番地に校舍を新築し小名小学校（總坪數一五〇、教場坪數九〇、教場八）と稱しました

而して縣令に基き教師の來任がありて仝十二年普通小学校となり、仝十五年縣小学校教則により高等中等初等の三科を設け磐前郡第三学区となり、江名の一部を含め十六ケ村を以て学区域とされた明けて十九年十二月には高等及び尋常の兩科を設置、小名浜　上、下神白岡小名、南富岡四ヶ村を一学区となし小名浜高等尋常小學校となり、仝二十二年四月町村制實施と共に當学區より上神白、岡小名、南富岡を分離し磐前郡第八学区に變更、單獨に高等並びに尋常科を併設、仝二十三年教育勅語發布、仝二十四年四月經費多きため町の堪え難きを以て高等科を癈し補習科を以て小名浜尋常小学校とされた、仝二十六年五月菊多磐組合郡立高等小学校を平町に設置せられ、その分教室を下明神町安養院に尋常科のみを設置　二十九年三月郡立高等小學校の癈止と共に尋常高等の二科を併置しました

三十七年五月第二学年程度の高等補習科を設く

仝四十年五月小名濱町立實業補習學校と稱し、これを附設されました

以上歴史をふり返つて見ると今こそ盛んな時と言えよう、惠まれたこの制度を十二分に利用して立派な國民として成長されんことを祈ります（K）

本稿は紙面の都合で明治年間のみを記述したことをお詫びします

印刷
御用命ハ
電219

天氣豫報　14

（本日）北のち西よりの風、はじめのうちは曇時々小雨の降る事もありますがのち次第に晴間が多くなつて來ましよう

（明日）西の風晴れたり曇つたりの天氣でしよう

（海上）本日は風波がまだ高いですが次第におさまり明日は穏やかになりましよう

魚菜市況　13

（魚市場）

平目七五〇小平五五〇ぶり五五〇すずき五五〇～六五〇黒平六〇〇中平六五〇あぢ三〇〇たこ三三〇やりいか二八〇～三二五ぎんだい一〇〇のどぐろ四五〇ぎす二五〇もち三六〇きんと五〇〇

「小名浜中央青果市場」

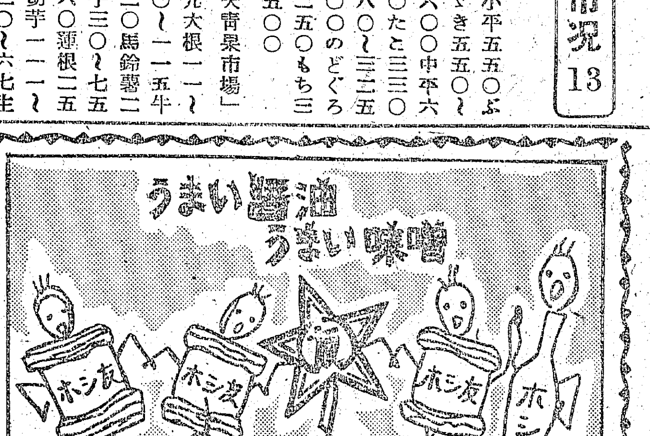
卵八、六～九大根一一～八五人蔘三〇～一一五牛蒡七〇～一二〇馬鈴薯二七～七〇里芋三〇～七五甘藷三〇～六〇蓮根二五〇～三七五切芋一一～一六〇玉菜二〇～六七生瓜（一本）一〇～一五

◎閑静な御座敷
自信ある料理と壽司
会合及び宴会に是非雷寿司を御利用の程御まちして居ります
雷壽司
小名浜町須賀町雷寿司通り
電話12番

内科
小兒科
會田醫院
院長　會田亮
小名浜町横町（電一四八）

◎楽しい春祭りと共なつて
其のお姿の思い出に!!
鈴木寫眞館
小名浜町大通り電話十八番

◎皆様に贈る腕と自信の
生壽司・うなぎ・御重を!!
江戸前
金時
◎近日中生ビール入荷
安價に應じお待ち致して居ります
小名浜町駅前
電話128番



ホシ友醤油株式會社　社長　星　友太郎

人氣の焦点〔諏ワ神社 春季大祭〕

總勢四百のヤツコ行列

祭色に埋る小名の表情

總勢四百実に十四年ぶりに復活した釜戸の奴行列が小名浜の春季大祭に出動協力するというビックニュースは空前の盛事だけに人氣の焦点となりさなきだに慶祝一色の町を沸きたたせている……

十三日鹿島樣の宵祭りに始まる小名浜の祭典繪巻きは十四日諏訪樣の宵祭りに繋がり、十五日古色豊かな大祭典が行われてみなと小名浜は文字通り三日間賑やかな祭色の中に明け暮れる

先ず十三日午前中の小ヌカ雨は祭典を清める露払いの役目を果して午後からはれ上り、全町戸毎に飾られたつつじと藤の花々も虹紫研を競つて鮮に映え、五月青葉の町並木と共に頗る健康的である町内單位のシメ繩竹の裝飾もいよいよ祭色氣分を沸き立たせて十三日が暮れ、十四日の鹿島神社大祭は諏訪神社宵祭りに盛大な祭典バトンを相渡して祭氣分は益々高潮、かくて十五日の諏訪神社大祭、待望の奴行列は九時三十分スワ神社に勢揃いして、群衆觀視の中を總勢四百名古色豊かな堂々の行列は小名川べりから常磐交通停留所（小名営業所）に出で港橋を渡つて魚市場に出で本通り米野から中島を經て西町へ小名浜のメーンストリートに悠々と古典繪巻を繰り擴げるが、その曠古の祭典を小名浜に見んものと沿線各町村から当日小名浜に詰めかける觀衆は地元町民を含めて十五万に達するだろうといわれているかくてスワ神社祭典を境として小名浜は一氣に夏態勢に突入、港と夏と漁場の華々しい活動期に浜の夏を謳歌する

可愛い稚子行列

大祭の興趣を添えて

十五日諏訪神社大祭は渡邊村釜戸の奴行列協力のため恒例の神樂は行われず、その代り豪華な稚子行列が氏子の子女數十名によつて行われ、六才から十才までの明粧した可愛い稚子が傳統を誇る御輿のすぐ後にコ從して往年の小名川街道から港橋を渡り水産町のシンボル築港前の漁業會に至り稚子だけは同所で正午解散御輿は奴行列の先導で町内主要道路を練つて米野、中島、中町を經て西町第二小學校前に至り十五日の盛事にピリオドを打ち茲に三日間にわたる祭典繪巻を終了する

「うぐいすの谷より出づる聲なくば……」

梅についての文献

百花にさきがけて春が来たぞと知らせてくれるものは何といつても梅の花である、この梅は讃えられ花も實もあり、花觀てよし、そしてその實が又大切なたべものになるということでも梅にとしたことはない

この美しく清らかな梅花は、古くから文学に詩にうたわれている、今日では日本の何處でも梅の木を見ることが出來るが、もとはわが國になかつたもので、中國から取入れたものである、「うめ」なる言葉も中國からのかりもので、一說には梅の木が植えられる前に梅干しが輸入された、これは「烏梅」（うめ）と呼ばれ始めは藥用に珍重されていた、原產地は中央亞細亞です

日本に渡つて來た年代はよくわかつていないが、梅という字が出てくるのは万葉集が一番古いところから多分、今を去る千五、六百年位前に中國から輸入したものであろうといわれる

ところでその烏梅がとれるものだからというのでこれを「うめ」とよぶととになつたといわれます

また一說には、そうでなくて最初のうちは中國と同じく「め」（梅）とよんでいたが、それに「う」の音をつけないと、どろがよくないので、そこで「うめ」としたのだともいわれるが、どちらにせよ中國から取りいれてあるのに間違いはない、私の家にも三十本ほどあり、紅梅、ゆすら梅など毎年鈴なりに實がなります、何といつても水戸市常磐公園の梅林（德川光圀公植付け）は日本一というところ

梅といえば連想的にウグイスを想い出される、「うぐいすの谷より出ずる聲なくば春來ることを誰かしらまし」と大江千里などは詠つている

梅と共にまず春を知らせるものは、この鶯であるされぱこそこの「うぐいす」は春告げ鳥ともいわれている

專實春と梅と「うぐいす」をチヤンポンした歌が多く、たとえば風雅集にも「うぐいす」なく音きけば山ふかみ我よりさきに春は來にけり」とあり、また「うめの花咲けるおかべに家をれば、ともしくもあらずうぐいすの聲」と万葉集にも見える

明治天皇御製に「おみどもと駒はせゆけば大庭の梅の匂いを散らす春風」「このごろは垣根の柳のきの梅みな鶯のやどとなりぬる」「まさかりの梅の林にさす月の影さへかをる春の夕ぐれ」ほか、みやまうぐいす等數十首に及び詠ませ給うているそのほか想い出せば和泉式部、俳句の一茶、有名な「鶯宿梅」など數々梅と鶯に關した歌が多い、因に「うぐいす」とはどういう譯でこういう名稱がうまれたかというに、鳥獸にはその鳴く聲をそのままとつてつけたのが多いようで、うぐいすもそういうところに起因している

社告

十四、十五日は鹿島、ス訪両神社春季例大祭の爲め休ませて頂きます
隨つて十五、十六日附新聞は休刊となりますから御了承下さい

磐城日日新聞社

レーニン帽も輕く

平間氏中共から帰る

待ちに待つた第三次中共引揚げ高砂丸は、去る三日夕一千七百七十六名の邦人を乘せて秦皇島を出帆、海上時化のため予定より一日遅れて、なつかしの故國舞鶴港に八日朝七時歡迎の嵐を浴びて入港した同船には待ちとがれた小名浜町出身の平間年雄氏（三八）原田武一（一九）全哲二（一六）さんの三人が上陸を待つていた

一ときも早く逢おうと子思いの母親、小名浜町神渡四二平間洋裁学院長本間せん（六〇）さんと妹てる子（二二）さんがとみ上げる感激の胸を抑えてしばし上陸を待つていた、やがて下船、十四年振りに歸國した年雄さんは、レーニン帽に夏紺の工作服姿で、少し大陸焦けした顔に至極元氣であつた、さすが肉親の對面には言葉少なくただ感激の涙が光り、感無慨量の態であつた

引揚げ列車は途中名古屋駅ホームでとの知らせを受けた長野縣上伊那郡朝日村の實家で夫の無事歸還を祈りよく愛兒惠子（八）ちゃんを育てて來た妻とみえさん（三五）要子が、タツた十分間の久し振りの再會（惠子ちゃん生れて初めてであつた）に盡きない物語をよそに列車は出發、列車は五分遅れて町民多數の出迎えをうけ十二日午後五時二十分小名浜驛着、すわ神社鎭座まします神渡の自宅へくつろいだ

祖國再建に頑張る

平間氏第一声

記者…この度びは長いこと御苦勢さまでした、内地に着いた直感の感想をどうぞ……

年雄さん…予想以上に敗戰祖國が復興しているのに驚きました、祖國の山河は幾度見ても美しいです

年雄さん…住宅と就職が先決問題です、どんなことにもブツかつて祖國再建に頑張ります

小島の運動靴

飯塚氏が通信長

スワ孃も一日保安官

〃既報〃小名浜海上保安部開廳五周年記念行事の一環として行われた「一日保安官」は十三日そぼ降る雨をついて今保安部巡視船〃あさちどり〃（三百噸）は一日保安官、小名浜大浦經濟課長の船長、小名浜漁協菊田理事の機關長、商工会飯塚專務理事の通信長、商工会諏訪、專問店会和田孃の操舵手が紺の保安服にガツシリと身を固め、池田部長、新川船長から司令塔で航海についての說明を双眼鏡を握つて、うなずいている姿は「ニセモノ」とは思えぬ程颯爽たる勇姿、十時五十分各報導關係、記者を始め町民數十名をのせて、進路を南にとり愈々出發、司令塔には羅針盤を象徵した「保安旗」と「祝す」の信号旗が〃へんぽん〃とひるがえつている、時速八ノツト、港外はガスと小雨が降りしきる中を純白の〃あさちどり〃は微浪をのり越して進み、十一時三十分……霞の中にかすかに鹽屋崎燈台が見える頃「面舵一パイ」と大浦船長のドラ聲に飯塚通信長の操舵が危なく—左旋廻して無事歸港した

上映中
=16日マデ=
加賀騷動
凸凹空中の巻
劍劇女優とストリツパー
金美館

新入生歡迎角力大會

水產高校で

縣立小名浜水產高校（校長安達氏）では來る二十日午前九時から新入生歡迎角力大会を校庭に開催する

一クラス五名づつ參加し團体優勝には賞品、個人優勝には賞狀が授與される

なお石城高体連では、との程角力部を新設、部長に磯上同校教諭が選任されただけに、浜通り高校に角力部が設けられているのは本校のみといわれる、その熱意は年を経ると共に旺盛を極め、父兄側は勿論、將來を囑望されている

映画

◎加賀騷動

サンデー毎日に連載された村上元三の原作を橋本忍が脚色、好調の佐伯淸がメガホンを握つての大作、加賀騷動の立役者大槻傳藏（大友柳太郎）の人間としての姿を新鮮な感覺を以て探り、所謂お家乘つとりを裏面から描いた異色ある作品で、新しい時代劇映画のモラルを示めすものとして好評を得ている、大友柳太郎の扮する大槻傳藏が一世一代の名演技を樂しませる外、千田是也、小澤榮、東野英治郎、瀧田研二、三島雅夫、加藤嘉、女優陣に東惠美子、山田五十鈴、利根はる惠と新劇陣を網羅してのキャスト陣を固めた異色は新機軸を生み出して心憎い迄に〃才人なるが故に辿る人間大槻傳藏の限りなき悲劇〃を画いている

◎凸凹空中の巻

お馴染みアボツト、コステロの喜劇映画、我が國では五本目の上映であるユニバアーサル作品

此の映画はカリホルニヤ洲オンタリヤの加洲航空学校で實際にロケされたもので時節柄の國策的な色彩の臭みは感じられるが、やはり全篇を流れるものはあく迄も彼等の持味であるスピードとスリムの中に描かれており、彼等コンビの作品中秀逸である

（三本立十四日〜十六日迄）　金美館

經費をかけずに良い品安く
新綠旅行シーズン
修学旅行にボストン手提鞄
旅行セツト、ハンドバツク
レインコート、絹ビニール
黒別珍婦人靴450円より
男女雨靴長靴洋傘パラソル
婦人セータギヤバ中高校服
丸首メリヤス女性着新安値
化粧品柳屋メヌマ ジユジユペピリオ } 80円
今評判の『ちどり』フトン綿
洋傘まつり
洋傘一本毎に抽籤券一枚
お買物には先づ平マーケツトを思出して下さい私共は常に貴方の御相談相手として待機しています
皆様の店
平マーケツト
小名浜第二小学校前 電二九七
チケツト歡迎

改裝
チケツト歡迎
背廣・ワイシヤツ
豊富に取揃えました
都服裝店
本店 TEL551　支店 TEL671

◎春祭りと共に樂しむ
思い出のお姿を寫しましよう!!
助川寫眞館
電話308番

祭典
（祈 海上安全 家内安全）
小名浜鎭座
鹿島神社
五月日十四日
社掌 馬上安太郎
社總代 一同

例大祭
小名浜鎭座
諏訪神社
五月十五日
釜戸奴行列（總勢四百名）來町
社總代一同
世話役一同

印刷の御用命は
ナカセインサツ株式会社
小名浜町渚廻り 電二一九